

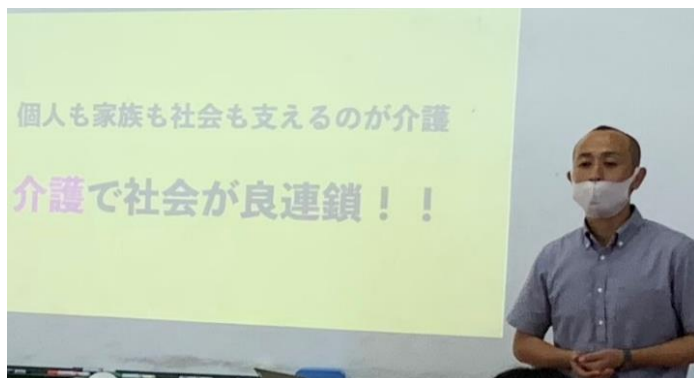
令和3年度 3年福祉保育コースの取り組み（福祉科）

「介護過程」（選択科目）の授業では、「社会資源」や「多職種連携」の知識、技術を学ぶことを目的に、関係機関にご理解、ご協力いただき、たくさんの外部講師の先生方にご指導いただきました。

6月16日（水）5h

いばらき中央福祉専門学校 小林 信彦先生（コネクター／介護福祉士科教員／介護福祉士）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きりり人”）

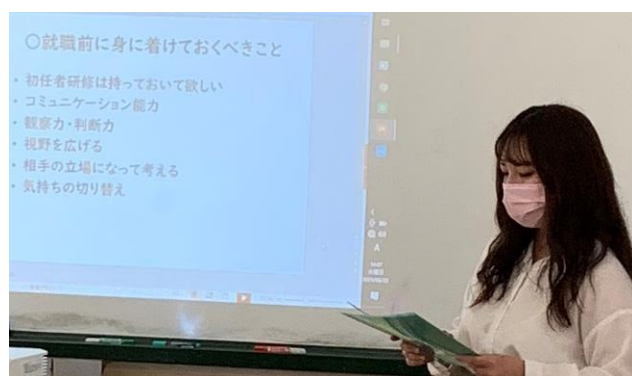


小林先生は、教員をはじめ、特別養護老人ホームもみじ館のまちづくり推進課や「いばふく」の運営、介護人材育成コンサルタントなど幅広くご活躍されています。「介護」は幸せを作っていく仕事であり、「幸せ」の状態を作ることとは大変な仕事であること、だからこそ楽しいことや充実感があることを学ぶことができました。特に、高齢者や障害のある方を「幸せ」な状態にすることが、ご家族や社会の幸せを作っていくことに繋がるということも学ぶことができました。

6月22日（火）5h

特別養護老人ホーム うみべの家 福本 麗菜先生（介護職員）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きりり人”）

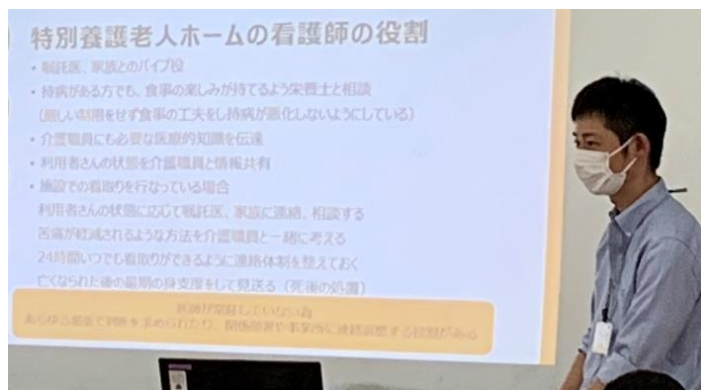


福本先生は高校卒業後、中学時代の同施設での職場体験をきっかけに就職、介護福祉士の資格取得を目指されています。日々介護に向き合う福本先生のご経験から、介護過程やケアマネジメント、多職種連携について教科書上の知識を実践に繋げる工夫を学びました。また、「介護」の仕事は大変と言われる反面、「毎日、利用者さんの笑顔が見られる」「利用者さんができることを目にする事ができると嬉しい」「人に優しくできるところが魅力」であることをお話していただきました。

7月6日（火）5h

特別養護老人ホーム サン豊浦 村田 純先生（看護師、機能訓練指導員／介護福祉士）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きらり人”）

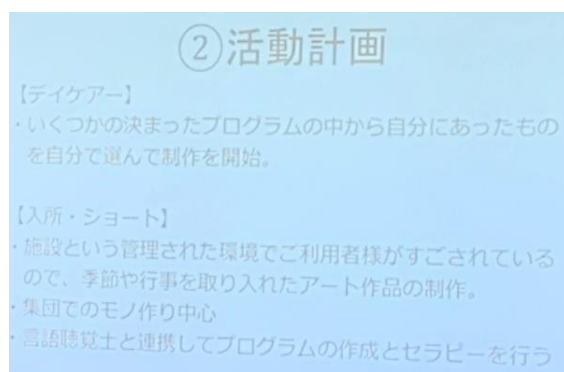


村田先生の介護福祉士としてのご経験や看護師として携わるなかでの看護師の役割、看護計画を立てる視点についてお話してくださりました。病院と施設での看護師の役割の違いや、介護職員にも必要な医療的知識を伝達する役割があること、利用者の方の状態を介護職員と情報共有するなどの多職種と連携する場面がたくさんあることを学びました。また、村田先生から、同職場での現場職員へ実施したアンケートの結果についてお話してくださり、現場で働く職員の方の声を聞くととても貴重な機会となりました。

7月15日（木）2h

総合自立支援就労事業所 1up 生江 教代先生（支援員／アートセラピスト）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きらり人”）



生江先生は、アートセラピストの役割や活動計画の立て方、介護を学んだ上で自分の強みを活かすこととお話してくださりました。モノづくりを通して、利用者の方のモチベーションや生活意欲の向上に繋がること、活動計画の立て方は、通所と入所での違いがあることや人それぞれ興味や関心が違うため、いつもネタ探しをし、大人が楽しめるもの目標に工夫されていることを学びました。また、作品作りのポイントとして、集団で1つの作品をつくる場合は、それぞれの得意分野を活かして制作していくとのことのお話は、自分自身やこれから出会う方への関わりを考える貴重な機会になりました。

10月5日（火）5h

水戸済生会総合病院 河野 直弘先生（言語聴覚士）

※茨城県リハビリテーション専門職協会より紹介

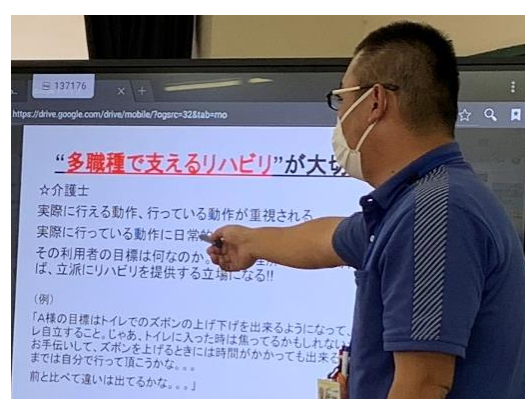
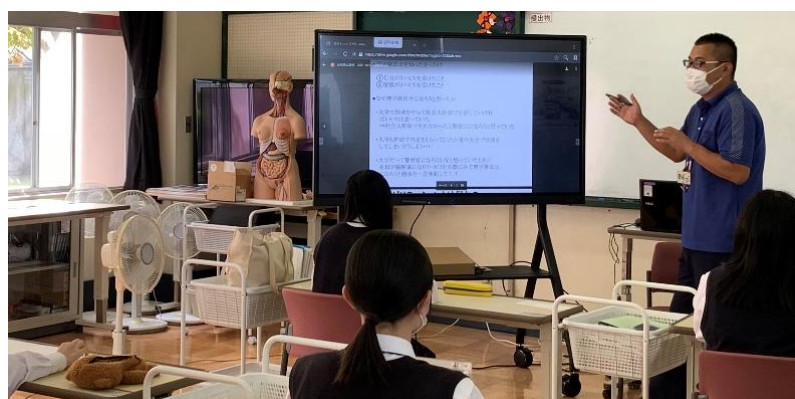


言語聴覚士の専門性や具体的に介入する部分を「ことばの鎖」のしくみから「コミュニケーション」の支援へ繋げてご説明いただきました。福祉の分野では細かく学ばない内容を学ぶことができ、支援を必要とする方の病気や支援方法への理解が深まりました。特に、多職種連携の肝として「相手に敬意を払いつつ、自分の意見を主張する」という「相手の領域を知り、そのなかで自分の専門性をどう活かすのか」「多職種がお互いにない部分を補いながら、お互いの専門性を活かして支援を最大化する」とのお話は、今後、社会人として働くうえでとても重要な視点を再確認することに繋がりました。

10月6日（水）5h

フロイデ水戸メディカルプラザ 國井 崇洋先生（理学療法士）

※茨城県リハビリテーション専門職協会より紹介

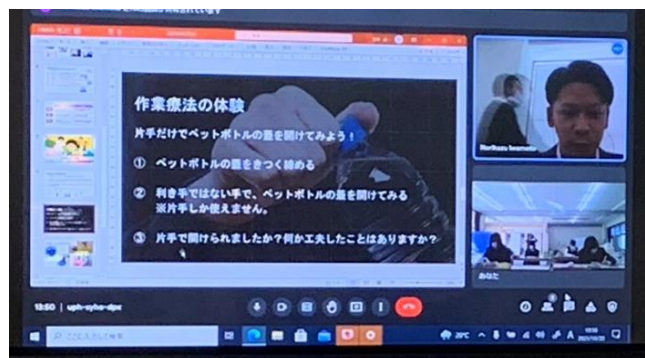


近年、理学療法士が介護予防に力を入れ、医療から介護の分野で活躍するようになり、生活期を支えるリハビリ専門職が限られていることから、生活期に一番、利用者の方に接する介護職の役割が重要であること、介護職は利用者の方の本音を目標に結びつけ多職種に情報共有していく重要な役割を担うことを学びました。他職種がリハビリテーション計画を確認して支援にあたることから、「介護過程」で学んでいるICFの視点を実践の場で活用し、各専門職が立てた計画をお互いを知ることで、支援に最大限の効果をもたらす重要性を認識することができました。

10月19日（火）5h

アール医療福祉専門学校 岩本 記一先生（作業療法士）

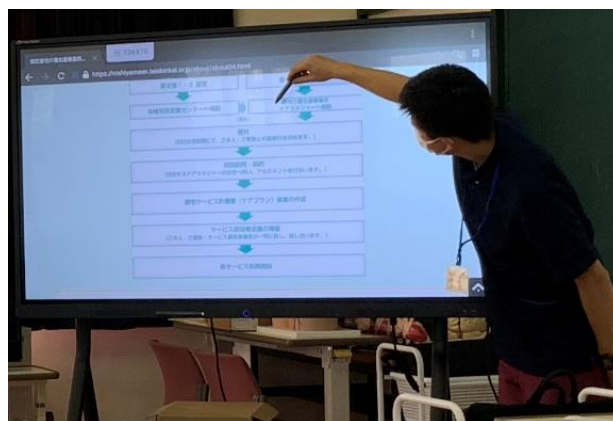
※茨城県リハビリテーション専門職協会より紹介



作業療法は、精神に障がいがある人も対象とすることや応用的動作能力、社会適応能力の回復を目指すこと、日常動作訓練、手芸・工作活動を通してリハビリテーションを行うことを学びました。また「片手だけでペットボトルの蓋を開けてみる」体験を行い、患者様に合った自助具を材料から集めて手作りで作成することや市販されている道具もあることをご紹介いただきました。「特に医療、福祉職は、その方を傷つけない言葉で、自分よりも年齢の上の方に敬意をもって話をする」「相手の目を見て、マスクをしていますが表情を豊かに出すようにしている」との話は、医療や福祉の現場で気をつけるべきこととして再認識する機会になりました。

11月2日（火）5h

社会福祉法人 西山苑 篠田 聡先生（介護支援専門員（ケアマネージャー）／介護福祉士）



生活課題が多様化・複雑化するなか、生活課題に個々に対応する必要があることや、それを「介護過程」で段階的に解決を目指すうえで、チームアプローチが重要であることを学びました。1つのことを皆で解決していくには、目標の設定は重要であり、目標は利用者の意向、もしくは利用者の方の意向を汲み取り、スタッフが分析して導き出されたものであるということも再認識することができました。また、利用者の方を第一に考え、介護職は、利用者の方に一番近い存在であることを忘れず、些細な変化に気づき、介護過程を見直ししていくことや、他職種の資格に対しての理解や連携していくこと、利用者の方とは良い緊張を持ったうえでしっかりケアしていくことが重要であることを学びました。

12月1日（水）5h

ひまわり館・ひまわりキッズ館

大竹 康博先生（管理者） 清水 美由希先生（主任支援員）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きりり人”）



「福祉の仕事」全般や、同事業所や仕事の紹介、福祉の仕事で大切なこと、今の仕事をしていてよかったと思った瞬間、余暇活動の様子についてお話してくださりました。また、生徒との距離を近づけるために、利用者の方が作成したハンドメイドグッズのプレゼントやゲームを準備してくださりました。何事も「ストレングス」の視点を持ち、「できないこと」ではなく「できること」に着目し、ご利用者様に関わることを大切にされているというお話が印象的で、職員同士の関わりでも「ストレングス」の視点を大切に実践面で連携されているという取り組みが、安心して働ける職場環境をつくることに繋がるということを学ぶことができました。

1月18日（火）5h

特別養護老人ホーム オークス東海 桐原 奈緒也先生（ユニットリーダー／介護福祉士）

※茨城県社会福祉協議会より紹介（ふくし“きりり人”）



桐原先生からは、ユニットリーダーの役割や多職種連携の視点だけではなく、福祉の魅力や自分の夢をどう叶えるか、マインドのもち方、新人職員の立場で遭遇する内容について具体的にアドバイスをいただきました。「介護は、その人らしい当たり前の生活を送ること、または、その生活を取り戻すという目標を一緒に達成する仕事であり、そのためにはどうすれば良いのかという分析能力が求められる」とのお話がありました。この仕事に取り組むうえで、まずは自分の目標を立て、見える化し、達成できるように細分化すること、その1つひとつが成功体験になり次に繋がるよう自分を客観的に見ていくことも大切であることを学びました。自分がこれから関わる方の「生死」に真剣に関わり、その方が「何をしたいのか」を多職種で連携していくという、重要な視点を学ぶことができました。

その他、昨年度に引き続き、常陸太田市社会福祉協議会が行う「こころが通う文通事業」に参加させていただき、定期的に地域の高齢者の方とお手紙の交換を行いました。



また、介護の知識や技術を学ぶ「生活支援技術」の授業では、介護福祉士の沼田恵子先生に、医学・看護の知識や介護職員に必要な実技を学ぶ「こころとからだの理解」の授業では、看護師の藤田恵子先生にご指導いただきました。

福祉保育コースの取り組みに、ご理解、ご協力してくださる関係機関やたくさんの外部講師の先生方のおかげで、貴重な学び、経験をすることができました。

関係機関の皆様、ご理解、ご協力ありがとうございました。

講師の先生方、ご指導、ありがとうございました。